

受け入れ要請受電



救急現場から搬送受け入れ要請が専用電話に入ります。原則医師が応答し、傷病者の状態を聞き直ちに受け入れ可否などを判断します。搬送受け入れが決まれば救急外来に連絡し、直ちに受け入れ準備を始めます。

受け入れ準備



救急外来では傷病者情報に基づき、緊急度・重症度を判断し、必要な処置や検査の準備、関連部署への連絡・調整を始めます。また、必要な機材や薬剤の準備を進め、直ちに処置に入れる状態を整えます。

受け入れ、診察・処置



傷病者が到着すると救急隊から引き継ぎ、適切な初期対応・初期治療を行います。重症化するのを防ぐよう努めながら、必要時は専門医へ引き継ぎ、緊急処置や手術を行います。

緊急処置や手術が完了すると、状態に応じ入院治療に引き継いだり帰宅してもらいます。担当者は翌朝まで救急搬送やその他緊急の外来に備えます。

救急車内収容



観察結果や事故状況から適切な医療機関を選定し手配を行います。その際、医療機関に傷病者の観察結果や実施した応急処置など必要な情報を伝えます。隊員は、病院連絡と並行して処置を続行します。



現場出発



医療機関の手配と必要な処置を実施後、収容医療機関に向けて現場を出発します。搬送中も傷病者の観察・応急処置は続行します。

医療機関到着



傷病者を医師・看護師に引き継ぎ、観察結果・処置内容や搬送中の状態の変化などを伝えます。

医療機関へ傷病者を引き継ぐと各消防署へ帰署し、必要資器材の補充や消毒作業を行い次の出動に備えます。

現場到着



現場へ到着すると、傷病者の観察を行うとともに、関係者などから事故が発生した状況などを聞き取り、気管挿管（気道を確保するため喉にチューブを通す処置）や薬剤投与などの救命処置や止血、固定など必要な応急処置を行います。

出動指令



素早く出動準備を済ませる

隊員は夜間も交代で仮眠をとりながら24時間体制で備える



出動指令が下ると直ちに救急隊が3人1チームで出動。救急隊の装備や出動場所の確認などを終え現場へ向います。

事故発生!!



市内で事故が発生。一人の市民が倒れてしまい、その友人が119番通報を行いました。

119番通報受信



消防が119番通報を受けると、事故が発生した場所の住所や目標物、傷病者の情報を聞き取り、救急隊に出動指令を行います。その後も、通報者から傷病者の状態の聞き取りや応急処置の指示を続けます。

命を守る連携プレー

事故や病気はいつ起こるか分かりません。どんな時でも現場に急行し、市民の皆さんの命を守る救急隊。数秒の差が生死を分けたり重症化や後遺症を防ぐこともあるため、救急隊と病院では365日24時間いつでも迅速に出動し搬送、治療する体制を整えています。

通報の電話を受けてから急性期の処置に当たるまでの消防や病院の動きや連携を「市内で事故が発生した場合」の想定で紹介します。